

IPF 診療ガイドラインの刊行部会

坂東 政司¹、吾妻 安良太²、本間 栄³

1 自治医科大学 2 日本医科大学 3 東邦大学

IPF 診療ガイドラインは、EBM にコンセンサスを加えた、呼吸器専門医のみならず実地医家および患者のためのガイドライン (GL) として刊行し、その作成過程は Minds の「診療ガイドライン作成の手引き 2014」に準拠することを基本方針とする。

本ガイドラインの主たる目的は、国際的整合性を有する IPF の診断基準・アルゴリズムを示し、同時に国情に合った標準的な治療法を提示することである。したがって、現在 update 作業が進行中である ATS/ERS/JRS/ALAT 国際ガイドラインの内容との整合性を保ち、かつわが国の実地診療を反映する内容を模索する。作成にかかわる組織は、GL 統括委員会・GL 作成チーム・系統的レビュー (SR) チーム・GL 編集ワーキンググループより構成する。今年度は、日本呼吸器学会での作成承認申請、作成プロセスの決定、作成委員選出・役割分担の決定、重要臨床課題・クリニカルクエスト (CQ) の設定および CQ に関するアウトカム決定を行い、次年度には SR 作業に着手し、平成 28 年度の刊行を目指す。

はじめに

特発性肺線維症 (IPF) は、一般的には慢性経過で肺の線維化が進行し、不可逆的な蜂巢肺形成をきたす予後不良な疾患である。IPF の標準的治療法は現時点で確立されていないが、近年実施された臨床試験の結果を踏まえ、新たな治療戦略としてピルフェニドンやニンテダニブなどの抗線維化薬が注目されている。

わが国ではこれまでに IPF をはじめとする特発性間質性肺炎 (IIPs) の診療現場における意思決定を支援する文献として、日本呼吸器学会と厚生労働科学研究びまん性肺疾患に関する調査研究班との合同による「特発性間質性肺炎 診断と治療の手引き」が 2004 年に刊行され、現在第 3 版の改訂作業中である¹⁾。一方、国際的には 2000 年に ATS/ERS から IPF 国際合意ステートメントが報告²⁾され、2011 年には ATS/ERS/JRS/ALAT エビデンスに基づく特発性肺線維症 (IPF) の診断と管理ガイドライン (GL) が作成された³⁾。また 2013 年には ATS/ERS による IIPs の国際集学的分類が 11 年ぶりに改訂され、報告されている⁴⁾。

目的

本研究班の目的の 1 つは、客観的な指標に基づく疾患概念が確立している難治性びまん性肺疾患 (IIPs、サルコイドーシス、びまん性汎細気管支炎、肺胞タンパク症など) に関する科学的根拠を集積・分析し、エビデンスに基づいた診療 GL の作成・改訂等を推進し、臨床現場における医療の質の向上を図り、国民への研究成果の還元を促進することである。

今回、国際的整合性を有する診断基準・アルゴリズムを示し、同時に国情に合った標準的な治療法を提示することを目的とし、IIPs の中で最も頻度が高く、かつ予後不良である IPF に関する診療 GL を作成する。

方法および手順

IPF 診療 GL は、EBM にコンセンサスを加えた、呼吸器専門医のみならず実地医家および患者のための GL として刊行し、その作成過程は Minds の「診療ガイドライン作成の手引き 2014」⁵⁾ に準拠することを基本方針とする。

作成にかかわる組織は、GL 統括委員会・GL 作成チーム・系統的レビュー (SR) チーム・GL 編集ワーキンググループより構成する。GL 作成グループは、重要臨床課題を決定し、それぞれに対するクリニカルクエスチョン (CQ) の設定およびその構成要素であるアウトカムの決定を行う。SR チームは、決定された CQ に関するエビデンスを系統的にレビューし、推奨を作成する。GL 編集ワーキンググループは、IPF の臨床現場で多く存在する SR に適さない領域を担当し、総説的 GL を執筆し、全般的調整を行う。

今年度の成果

今年度は、作成プロセスの決定および 23 名の作成委員選出・役割分担の決定が完了し、重要臨床課題・クリニカルクエスチョン (CQ) の設定および CQ に関するアウトカムの決定作業が進行中である。また、日本呼吸器学会での作成承認申請も同時に進行中である。

来年度の計画

次年度には GL 作成グループによる全体会議を開催し、以後 SR 作業に着手し、2016 年 6 月に GL の策定を行う予定である。

文献

- 1) 日本呼吸器学会 びまん性肺疾患診断・治療ガイドライン作成委員会編：特発性間質性肺炎診断・治療の手引き改訂第 2 版 南江堂，東京 2011
- 2) American Thoracic Society: Idiopathic pulmonary fibrosis: diagnosis and treatment. International consensus statement. Am J Respir Crit Care Med 2000; 161:646-664.
- 3) Raghu G, et al. An official ATS/ERS/JRS/ALAT Statement: Idiopathic pulmonary fibrosis: Evidence-based guidelines for diagnosis and management. Am J Respir Crit Care Med 2011; 183: 788-824.
- 4) Travis WD, et al. An official ATS/ERS Statement: Update of the international multidisciplinary classification of the idiopathic interstitial pneumonias/. Am J Respir Crit Care Med 2013; 188:733-748.
- 5) Minds 診療ガイドライン作成の手引き 2014. 福井次矢、山口直人 (監修) 医学書院，東京 2014